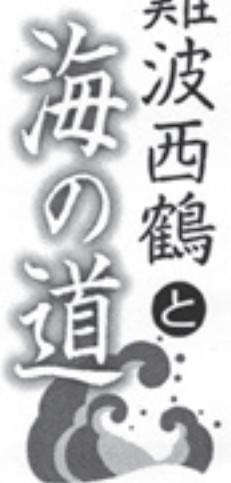


難波西鶴と



【78】

森田 雅也

前回は西鶴の地誌「一目玉鉾」
年刊】元禄2（1689）

の表現について述べました。「海の道」から
東北の「忍者石」の項
の表現の違いについて述べ
ました。「海の道」からは
脱線ですが、西鶴の「一目
玉鉾」とは、彼ならではの
面白い視点で描かれた地誌
です。

その「一目玉鉾」巻四には、「なんじいや四千百
四十里」は「四千百里」と呼び、「臥車」と記
しています。いずれにしても、「い
んじいや」とは「インティ
ア」の「」です。つまり、「
インテ」 = 「ゴア」だっ
たのでしょう。日本の関西

「ゴア」は、「日本」の
「」です。「ゴア」は「日
本国語大辞典」によれば、
「東インド共和国西岸の州。
主都はパンジム（パナジ）。
1510年以来ポルトガル
の植民地となり、東洋貿易
の拠点として繁栄。196

1年インドに接収された。
イエズス会のアジア伝道の
中心地でザビエルの墓があ
る」という地です。

江戸時代は、オランダか
らもたらされたインド織物
そのものを「カニア」、「ゴ
ア」と呼び、「臥車」と記
しました。いずれにしても、
江戸時代の人々は「ゴア」
「インテ」 = 「ゴア」だっ
たのでしょう。日本の関西

空港からのインドのアリーマ
で空路3427kmとあります。
約5500キロという
といふでしようか。

日本とインドが海路で
のくらいの距離で結ばれて
いるか存じませんが、西鶴
が「インテ」と「ゴア」で
海風数を盛えて表記してい
るには注目できます。も
しかすると、西鶴の知識の
中には、インドに、東海岸
のないところまで分かつていて
ではないでしょうか。事実、
西鶴の頃、西海岸のボルト
ガル領「ゴア」では魔れは
じめ、東海岸の「ポンティ
シェリ」付近ではフランス
とイギリスの東インド会社
がしのぎを削り始めていた
のです。

その「一目玉鉾」巻四には、「なんじいや四千百
四十里」は「四千百里」と呼び、「臥車」と記
しています。いずれにしても、「い
んじいや」とは「インティ
ア」の「」です。つまり、「
インテ」 = 「ゴア」だっ
たのでしょう。日本の関西

「ゴア」は、先にもあげ
たように日本にキリスト教
を初めて伝えた」とて有名
な「フランシスコ・ザビエ
ル」が拠点とした場所です。
彼はマラッカにおいて、日
本人アンジローと出会った
ことによって東洋伝道を思
い立つのですが、その宣教
師ゆかりの「ゴア」を西鶴
が重要視していたことに
驚かれます。

私事ながら、今夏運転の
間を縫って、イタリアに行
つきました。ローマでは
イエズス会の本拠地ジエス
教会を訪ねました。教会に
は「聖フランシスコ・ザビ
エル礼拝堂」があり、ザビ
エルの右腕が保存されてい
ます。見るとほかないま
せんでしたが、案外西鶴は
ザビエルのことをも知ってい
たのではないかと思いつめ
ぐらした次第。可能性があ
るかもしれませんね。

それにして西鶴は、な
ぜ「ゴア」をわざわざ取り
上げたのでしょうか。とい
うのも西鶴以外の作品で
あるものが見出せないからです。

「インド」「ゴア」使い分けた?

学言語学科教授

（関西学院大学文学部文